

桜 島

福岡管区气象台
火山監視・情報センター
鹿児島地方气象台

本日、現地観測及び、九州地方整備局の協力を得て上空からの観測を実施しました。
それによると、火砕流の流下跡が昭和火口から東側 1.3km 付近まで達しているのを確認しました。

なお、昭和火口では、爆発的噴火¹⁾は 3 日 15 時 54 分以降発生していません。

昭和火口及び南岳火口から 2 km 程度の範囲では警戒が必要です。また、降雨時には泥流や土石流に注意が必要です。風下側では降灰等に注意してください。

昨日(3日)に火口周辺警報(噴火警戒レベル 3、入山規制)を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

活動概況

・噴煙活動の状況

昭和火口では、爆発的噴火は 3 日 15 時 54 分以降発生していません。白色噴煙を連続的に噴出しており、ごく小規模な噴火は時々発生しています。

・地震・微動活動の状況

火山性地震及び火山性微動の発生状況に特段の変化はみられません。

・昭和火口周辺の状況(図 3、4)

昨日(3日)実施した現地観測では、3 日 15 時 54 分に発生した爆発的噴火に伴った火砕流による堆積物を確認しました。熱映像装置²⁾による観測では堆積物が周囲より高い温度を示しました。また、昭和火口の一部が広がっているのを観測しました。

本日実施した現地観測では、昭和火口から白色の噴煙を連続的に噴出しており、13 時頃には灰白色の噴煙を火口縁上 300m まで上げているのを観測しました。

また、九州地方整備局の協力を得て行なった上空からの観測では、火砕流の流下跡が昭和火口から東側 1.3km 付近まで達しているのを確認しました。

1) 桜島では、爆発地震を伴い、爆発音、体感空振、噴石の火口外への飛散、または气象台や島内の空振計で一定基準以上の空振のいずれかを観測した場合に爆発的噴火としています。

2) 赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を検知して温度分布を測定する機器であり、熱源から離れた場所から温度を測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

この資料は気象庁のほか、鹿児島大学、京都大学、独立行政法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50m メッシュ(標高)』を使用しています(承認番号:平 17 総使、第 503 号)。

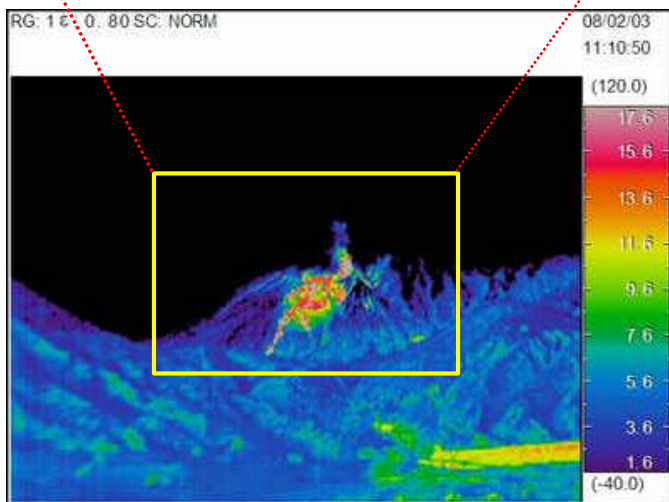
この火山活動解説資料は気象庁ホームページ(<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>)、福岡管区气象台ホームページ(<http://www.fukuoka-jma.go.jp/>)で閲覧することができます。



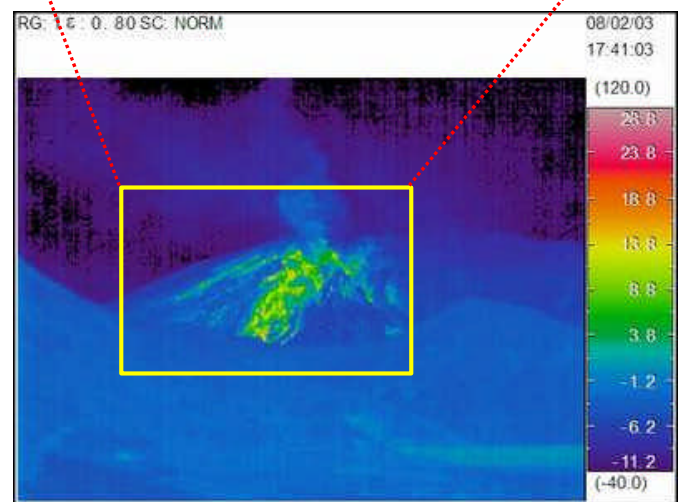
(写真 1) 2 月 3 日 10 時 55 分(黒神河原にて撮影)
(10 時 18 分の爆発的噴火後)



(写真 2) 2 月 3 日 17 時 45 分(黒神河原にて撮影)
(15 時 54 分の爆発的噴火後)



(熱画像 1) 2 月 3 日 11 時 10 分(黒神河原にて撮影)
(10 時 18 分の爆発的噴火後)



(熱画像 2) 2 月 3 日 17 時 41 分(黒神河原にて撮影)
(15 時 54 分の爆発的噴火後)

図 1 桜島 昭和火口周辺の様況

- ・写真 1 では昭和火口縁から麓に向けた谷沿いに火山灰が堆積しています。
- ・写真 2 は写真 1 で見られた堆積物がさらに広がっています。これは 15 時 54 分の爆発的噴火に伴って発生した火砕流によるものです。

* 熱画像内の黄色枠が写真の領域に対応します。



(写真3) 2月3日 17時45分
(黒神河原にて撮影)



(写真4) 1月24日
(黒神河原にて撮影)

図2 桜島 昭和火口周辺の状況

3日に撮影した写真3と1月24日の写真4の昭和火口を比較すると、写真4の黄色線の部分が無くなっていることが分かります。噴煙のため火口縁の下側以外は確認できませんでした。



図3 桜島 火砕流流下跡

2月4日九州地方整備局の協力を得て上空からの観測を実施しました。

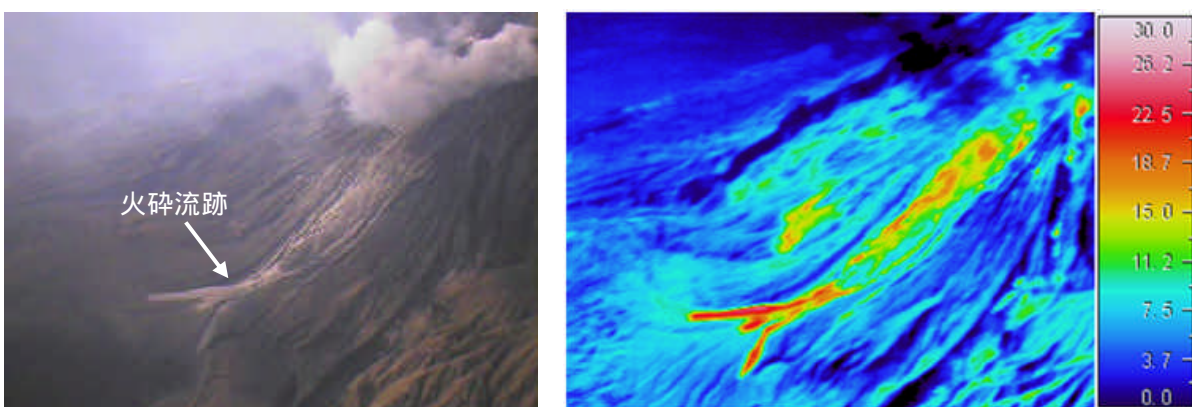


図4 桜島 火砕流流下跡（2月4日11時10分北東側から撮影）

火砕流の流下跡は周囲の温度より高温となっています。